

加美町総合計画策定及び加美町まちづくり基本条例策定に係る

まちづくりワールドカフェ 第2回 <町民意見等のまとめ>

ワールドカフェとは、“カフェ”にいるようなリラックスした雰囲気の中、参加者が少人数に分かれたテーブルで自由に対話を行い、ときどき他のテーブルとメンバーをシャッフルしながら話し合いを発展させる、会議や討議の一形式です。

主 催：加美町
運営支援：宮城大学地域振興事業部

【全体概要】

1. 目的

加美町総合計画及び加美町まちづくり基本条例に係る町民の意見・提案を効果的に集約し、今後の検討の参考資料とするために、一般町民向けの『まちづくりワールドカフェ』を企画・実施した。

第2回では、加美町まちづくり基本条例の検討に向けて、まちづくりへの町民参加や協働の仕組みづくり等に関する町民の意見・提案を集約した。

2. 日時 平成27年3月8日(日)10:00～12:00

3. 場所 中新田公民館 大ホール

4. 対象 一般町民：20名 各種団体の推薦者等(5人×4テーブル)

5. 内容

(1) 第1回ワールドカフェの振り返り

(2) まちづくりワールドカフェ

- テーマ まちづくりへの町民参加や協働の仕組みづくり
～若者・女性・高齢者・役場・議会の立場になって考える～

講評 徳永 幸之(宮城大学事業構想学部教授・学部長)

(1) 第1回ワールドカフェの振り返り

【概要】

今回の参加者のうち第1回まちづくりワールドカフェへの参加者は5～6名であった。

ここでは、前回の振り返りとして、10年後のありたい姿や施策の方向性を実現するための担い手(主体)を考えていくことが、今回のテーマ「まちづくりへの町民参加や協働の仕組みづくり」がつながっているという説明を行った。

また、各テーブルの発表のポイントは以下のとおり。

Aテーブル: 環境の視点

葉菜山から流れるきれいな水に恵まれ、多様な生物棲息環境を維持するとともに、米作りや酒造り、川遊びなど、自然を守ることで様々な恩恵を受けている。また、魅力のある景色(スポット)も多く、これらの地域資源を伝えていく努力が必要である。

Bテーブル: 福祉の視点

お年寄りと子どもをつなぐ仕組み作りに関して、お年寄りは知恵の宝庫であり、こうした人材を教育の場に活かしていくことで高齢者の生きがいや新しい働き方の提案につながるものと思われる。具体的には、「技の人材バンク」や「放課後授業」、「男性料理教室」など、福祉と教育をつなげるような取組が必要である。

Cテーブル: 産業の視点

地域の再生はつながりの再構築である。また、そのために地域資源力や地域自治力、地域経営力を高めることが何よりも大事である。各資源・産業の連携により、交流人口を拡大し、経済の好循環につなげることの重要である。

中学生チーム

将来の姿では、自然や環境、食に恵まれ景色が良いまち、清潔で明るく、楽しそうなまち、子どもが元気なまちなどがイメージとして浮かび上がった。また、学校行事に地域の参加など、地域の連帯に関する意見が見られた。

高校生チーム

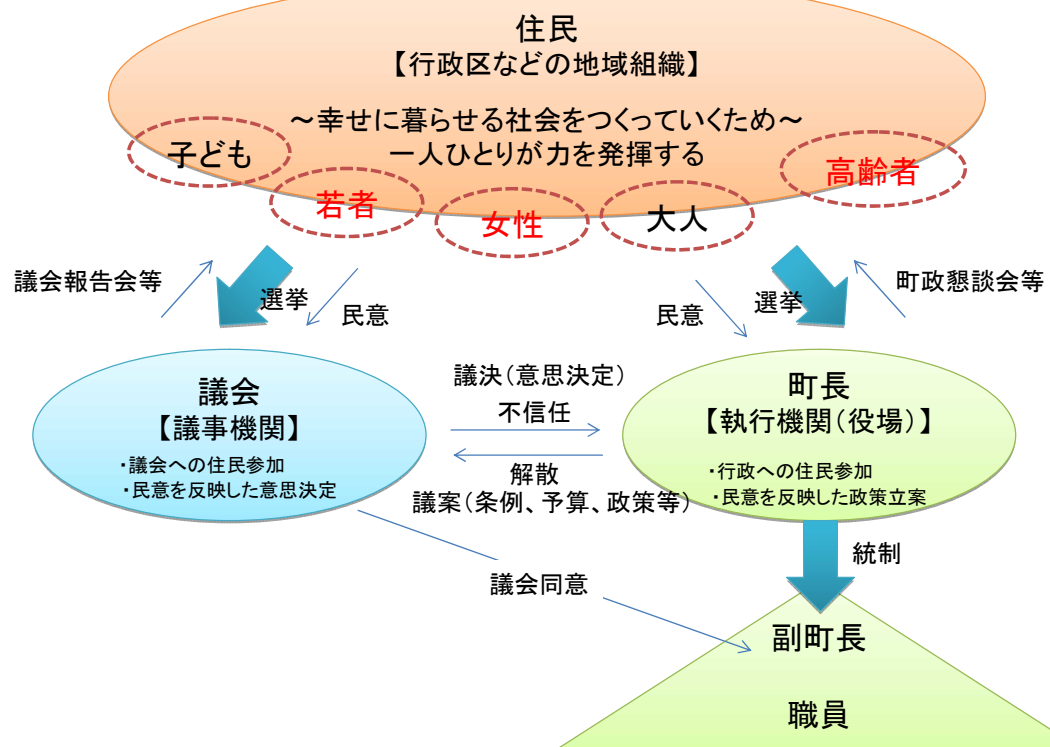
住んでいいまちでは、自然と一体となり、動物との共存し、食べ物がおいしい町というイメージのほか、町の歴史・文化を知る機会、進学先や幅広い就職先が確保されている町への関心が高かった。訪ねていいまちでは、おもてなしの重要性に関心が集まり、来た人が歓迎される町、再び帰ってきやすい町、何度も来たいと思える町のイメージなどの意見が出された。

(2)まちづくりワールドカフェ

- テーマ まちづくりへの町民参加や協働の仕組みづくり
～若者・女性・高齢者・役場・議会の立場になって考える～

加美町 まちづくりワールドカフェ 第2回

～若者・女性・高齢者・役場・議会の立場になって考える～



問い

参加の阻害要因【課題】

参加の活性化策【解決策】

移動

第1ラウンド
(15分)



第2ラウンド
(15分)



第3ラウンド
(15分)



第4ラウンド
(15分)

住民参加の足かせになっているもの？

(例) 条例策定委員会意見の抜粋

- 若者は関心がない
- 女性の参加が少ない
- 情報が共有されていない
- 人によって参加しやすい時間帯と場所がある
- 女性は子育てや仕事がある
- どう変わるか実感がない

住民参加を促し、広げるためのアイデア！

(例) 条例策定委員会意見の抜粋

- 声掛けをする
- 参加者を割り当てる
- 住民の意見を具体化する
- 女性を含めた若い人たちが成功体験を感じる
- 広報活動を充実する
- 得意分野で活躍していただく
- 若者と高齢者が交流できる



Aテーブル【若者】

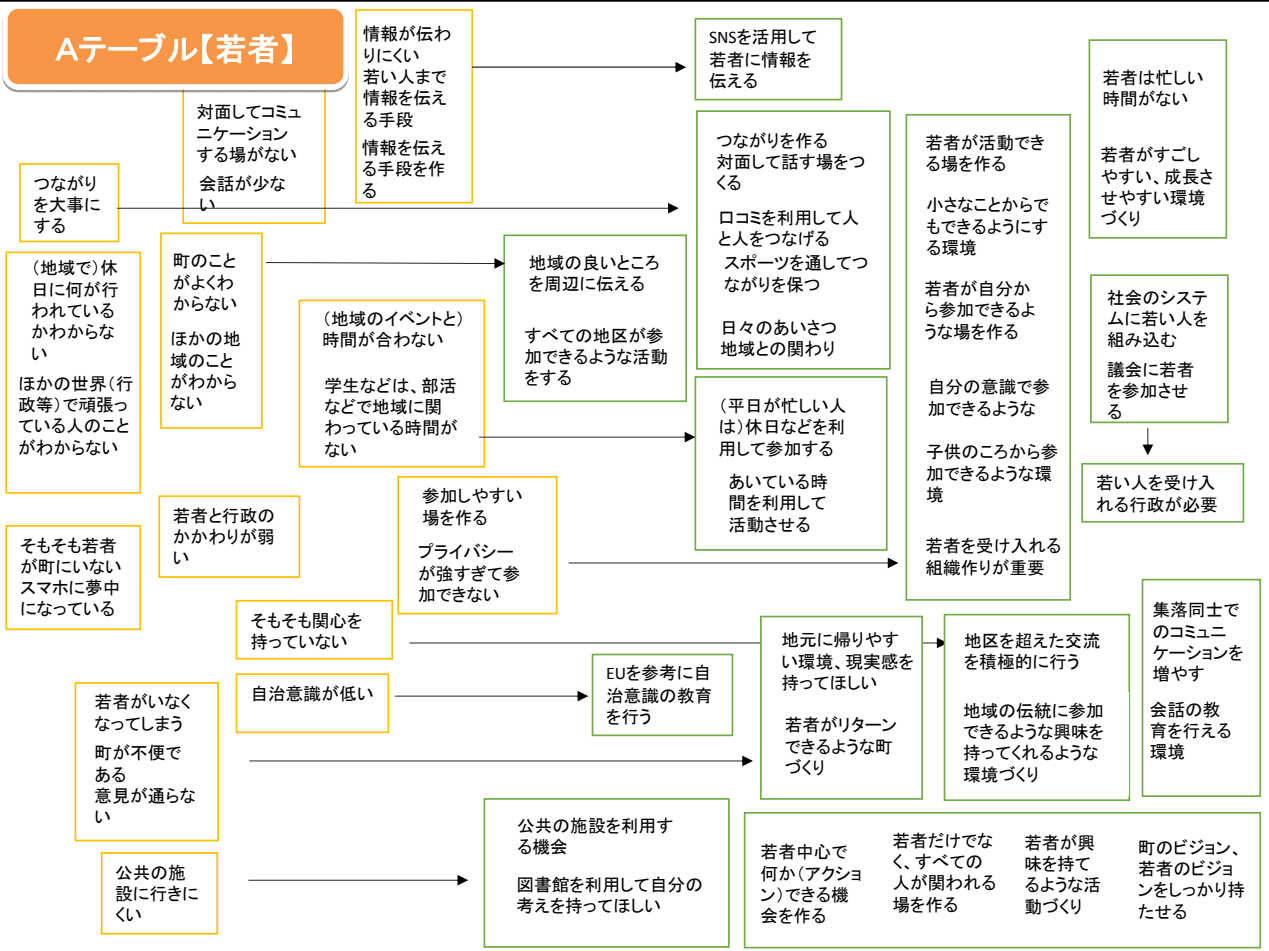
【概要】

Aテーブルは「若者の視点」から、若者ビジョンをもつことや若者を組み込む社会システムへの転換、地区を超えた交流の拡充等の意見が出された。

また、若者が興味を持てる活動や若者中心によるアクション、若者と地域のつながる機会を積極的につくっていくことなどが話し合われた。



Aテーブル【若者】



Bテーブル【女性】

【概要】

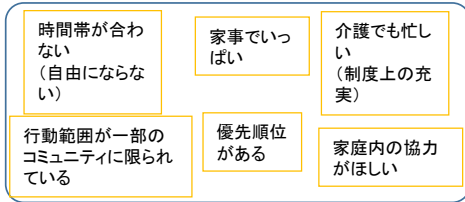
Bテーブルは「女性の視点」から、女性が担う役割が大きいことから、男性が担う役割の変化、慣習・伝統の見直しなどに期待する意見が出された。

また、子育てしやすい環境づくりや子供を連れていきやすい場作り、子どもを絡めた活動など、子ども・子育て世代に魅力ある企画が求められている。

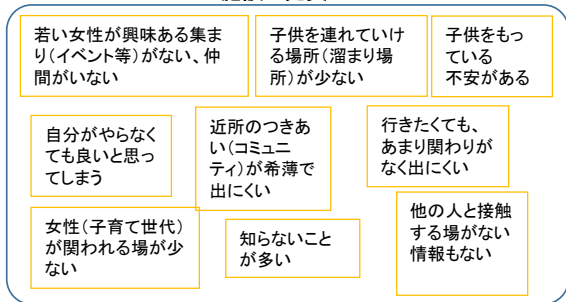


Bテーブル【女性】

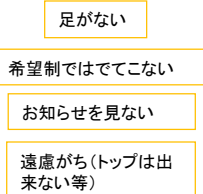
女性が担う役割が多く大きい



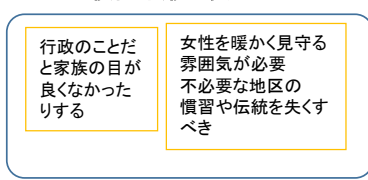
施設の充実



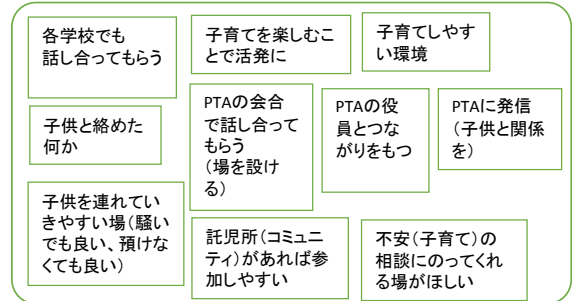
誰がその場をつくるか



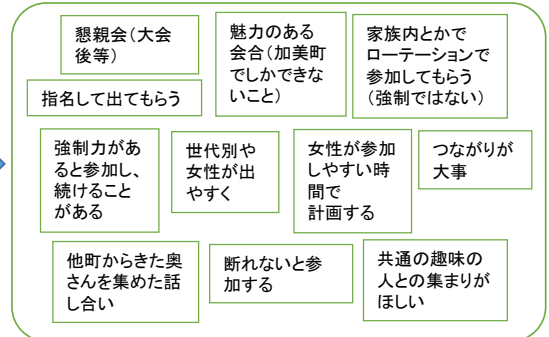
慣習・伝統の変化



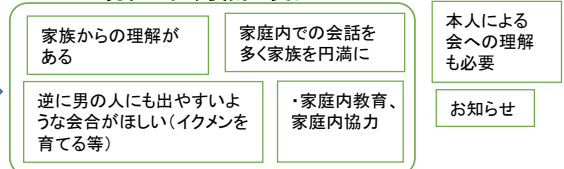
子供(PTA)



魅力ある内容



男性が担う役割の変化



Cテーブル【高齢者】

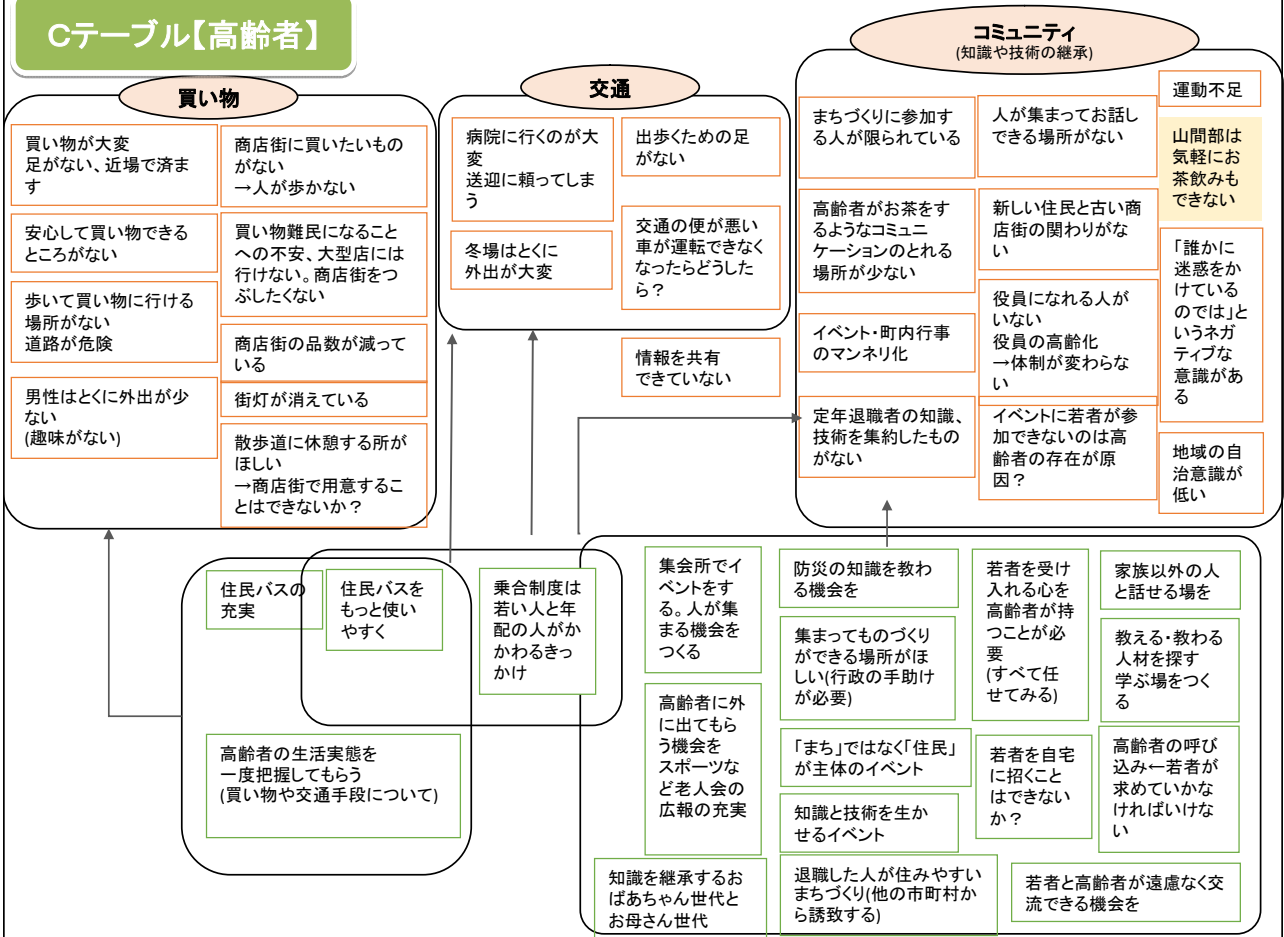
【概要】

Cテーブルは「高齢者の視点」から、買物難民になることへの不安や通院が不便、出歩くための足がないなど、交通の便に関する意見が多く出された。

また、地域コミュニティとの関連から、若者を受入れる心を高齢者自身がもつことや、高齢者がお茶する場所の確保、高齢者のもつ知識・技術の活用等への取り組みが求められている。



Cテーブル【高齢者】



Dテーブル【役場・議会】

【概要】

Dテーブルは「役場・議会の視点」から、役場についてはタテ割りの弊害や人事異動による事業の継続性の難しさ、対話の環境づくりに関する意見が出された。

また、議会については閉鎖的な印象があり、情報の公開や住民の意見を聞く場の設置などの意見が出された。

今後は、相談しやすいアットホームな役場の雰囲気づくりや若者等が議会を傍聴できる環境整備が求められている。



Dテーブル【役場・議会】

現状における問題・課題

解決策、アイデア

バラバラ感
情報共有による
横の連携

行政はバラバラ。情報共有が大事。

タテ社会で縦割りが強い、いろんな思い共有されない。

各課の行事が重なることが多い。横の連携をして欲しい。

異業種の方々の交流を進め、行政サービス向上を。

横のつながり、役場の中で情報共有を。

一課を集約するなど、横のつながりを強化すべき。

→住民、地域の側に職員が参画していく。

継続性と
専門性

担当者が変わると関係が切れる。専門性を育てることも大事。

行政の職員も地域に関わって欲しい。(プラス地域の仕事)

自分たちがきちんとまちに関われかが大事。

民間の力でまちづくりを進めていくことができないか。民間のノウハウで公共サービス。

人事異動の問題。最低でも2年ぐらい居て欲しい。

その他

健康が大事。地域で高齢者の見守りが必要

PTAの父兄の関係が希薄になっている

リーダーシップと
コスト意識

首長の資質、能力、リーダーシップが大事である。

ハード(道路、河川、建物)だけでなく、ソフト事業、支援事業に予算配分を。コストを考える。

基本は住民主体というであり、それをどう実行できるか。

対話の環境づくり

住民が役場に訪れて、気軽に話せる場や空間、雰囲気づくり。サロンなど。

役場は入り難い。若い人は緊張する。アットホームな雰囲気をつくる。

住民は役場に慣れていない。親しみが持てない。

広報や掲示物など、言葉が難しい。

役場は冷たく、固いイメージ。窓口に知り合いが居れば入り易い。

官僚的になっている場合もみられる。

役場の仕事は客商売。サービス産業としての意識が必要。

→アットホームな話し合い、相談しやすい環境や雰囲気づくり。

→情報の出し方を分かり易くしていく。
→職員教育で意識改革を進めていく。

役場
(行政)

開かれた議
会を

議会は閉鎖的な印象がある。情報の公開が大事。

議員さんの資質を高めることが大事。住民の意見を聞く場がない。

女性や若者も議員になれるような環境づくりを。

協働の方法を町の人が議員さんに教え、伝えていく。

議会村になっていないか。先例、自分たちの論理にこだわりがある。

→若者が議会を傍聴できる雰囲気づくり。

→気軽に集まれる場をつくる。
例えば、夜間、土日議会の開催

議会

【講評】

まちづくりワールドカフェ(第2回)の講評では、徳永先生から4つのキーワード「つながり」「子ども」「交通」「タテ割り」が示されるとともに、町民と町長、町民と議会の関係は代理人の関係であるということに触れ、関係者の信頼関係づくりの重要性を指摘した。

A. キーワード: つながり

- ・これからのまちづくりは、「つながり」が大切だと思う。
- ・志縁(分野)の関係が強まりつつあるなか、地縁(地域)の関係をとりもどす仕掛けが必要ではないか。

B. キーワード: 子ども

- ・自分の子どもはもちろん、地域の子どもの、自分の子どものように感じて地域ぐるみで育てる意識が大切ではないか。

C. キーワード: 交通

- ・交通の問題は、交通だけをみていてはだめで、買物環境としての商店街や病院等を合わせて考えるべきではないか。

D. キーワード: タテ割り

- ・これまで行政の分業化が進んできたが連携の仕組みが大事だ。
- ・町民と町長、議会の関係は代理人の関係、任せっぱなしにはいけない。日頃から代理人とよく話し合っって信頼関係をつくるのが、良い仕事につながるのではないか。

